

見沼たんぼ・代用水をめぐる

-自然と歴史に
漫りながら！-

大宮区の東側に広がる見沼たんぼは、四季折々の田園風景や豊かな自然が残る大規模な緑地空間です。この地域の歴史はとても古く、独特の文化・伝統が継承されていることも特徴の一つです。長い歴史に育まれた見沼たんぼの独自の自然、歴史、文化を感じながら散策してみたいはいかがでしょうか。



スタート 大宮駅 → さいたま新都心駅 → バス停「上木崎」下車 道のり 約4.0km

約350m

1 景元寺
景元寺は、上杉謙信が関東に出陣した際に、その家臣長尾景元がここに陣屋を構え、のちに寺になった折に「景元」を寺の名前に付けたそうです。境内には、謙信がこの辺りで雷雨に遭い、木の下で雨宿りをしたと伝える、推定樹齢450年のシイの大木(市指定天然記念物)があります。

約900m

2 北袋河岸場跡【高速道路下】
かつて見沼の舟運が盛んであった頃、見沼代用水沿いの要所には、積荷の監視や通行料の徴収などを行う会所が置かれていました。北袋河岸場跡は、その会所の場所といわれています。江戸時代には、年貢米を浅草の蔵前まで運び、桶りに塩や肥料などを運んだといわれています。

約200m

3 高沼用水取水口
高沼用水は、八代将軍・徳川吉宗が見沼代用水西縁を掘削した折に掘られ、西側の低地への灌がい用水にあてられました。この場所が、取水口の水門となる場所です。現在も水路周辺には自然が多く残されていて、取水口から産業道路まで遊歩道が続いています。

約760m

4 子易観世音
子易観世音は、「新秩父礼所めぐり」のひとつに数えられ、安産、子授け、家内安全などにご利益があるといわれています。秋には境内にある大銀杏の見事な黄葉が見られます。

約670m

5 天沼神社
もとは熊野神社と称しましたが、明治41年に村名を冠した「天沼神社」となりました。子どもの百日咳に霊験があるとされ、百日咳にかかると当社に祈願し、治るとお礼におしゃもじを奉納していたため、「天沼のおしゃもじ様」と呼ばれるようになりました。

約100m

6 大日堂
大日堂は、鎌倉時代に創建と伝えられ、境内には、樹齢約400年のシノキがあります。樹下には、石地蔵があり、安産にご利益があるといわれ、「子宝のしい」としてまつられています。また本堂西側に、「板石塔婆」と呼ばれる大きな板碑が市指定有形文化財として保存してあります。

約650m

7 防災センター 開館時間 9:00~16:30 休館日 月曜(祝日を除く)、年末年始
防災センターの1階にある「防災展示ホール」は、地震や火災などの災害について楽しみながら学ぶことのできる施設となっています。地震や煙の体験コーナーや防災映像シアター、防火衣装着体験コーナーなどがあります。(入館料無料)

約250m

8 合併記念見沼公園
合併記念見沼公園は、さいたま市誕生を記念して造られました。園内は、芝生広場と池と湿地を復元した自然公園(ビオトープ)が中心の公園です。木道を歩きながら水鳥や見沼の植物などを間近で観察できます。

約100m

ゴール バス停「自治医大医療センター」乗車 → 大宮駅

大宮・ものしりコラム!
-見沼たんぼには、歴史や伝説が今も語り継がれています。-

見沼たんぼの歴史
現在見沼たんぼがある地域は、かつて沼地でした。江戸時代初期に灌がい用の溜め池として「見沼溜井(みぬまためい)」が築造され、そして江戸時代中期、八代将軍・徳川吉宗の命を受けた井沢弥惣兵衛が永(いざわやそべえ)のためにより、新田開発のため干拓され、「見沼たんぼ」が生まれました。また、干拓された見沼溜井の代わりとなる農業用水が利根川から引かれ、西縁と東縁の台地に沿って水路が掘削され、「見沼代用水」となりました。見沼代用水には、芝川と結ぶために「見沼通船堀(みぬまつせんぼり)」が造られ、農業用水が不要となる秋～冬期は舟により様々な物資が輸送されました。

見沼の竜神伝説
見沼には数々の竜神伝説が残されています。見沼干拓の命を受けた井沢弥惣兵衛が永が大日堂(散策ルート⑥)に泊まり工事の準備を進めていると、美女に化けた竜神が現れ、「沼を残してほしい」と願いました。干拓で住みかを無くす竜神のために万年寺に神灯を掲げ、「竜神灯」と名付けてその霊をなくさめました。この神灯は毎夜、美女(竜神)自身によって灯されたといわれています。